



令和7年5月29日

アジア太平洋情報オリンピックに参加した選手が金メダル等を獲得しました
また、特に優秀な成績をおさめた選手に対する文部科学大臣特別賞の受賞者を決定しました

文部科学省では、国立研究開発法人科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しております。このたびオンラインにより開催された「第19回アジア太平洋情報オリンピック（主催国：ウズベキスタン）」に参加した選手が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

また、文部科学省では、アジア太平洋情報オリンピックにおいて、特に優秀な成績をおさめた者に対して文部科学大臣特別賞の授与を行っており、このたびの成績を踏まえ、受賞者を決定しましたので、併せてお知らせします。

（共同発表：一般社団法人情報オリンピック日本委員会）

1. 受賞状況：金メダル1名、銀メダル3名、銅メダル2名

※金メダルは各国代表選手の成績上位およそ1/12、銀メダルは2/12、銅メダルは3/12の割合で与えられる。

2. 参加者：24名の高校生等

※今回のアジア太平洋情報オリンピックは、各国・地域から30名までの選手が参加可能であった。各国参加者のうち、成績上位6名タイまでが当該国の代表選手と見なされる。

3. 日本代表選手および受賞者詳細：

○太田	かつき 克樹さん	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）	3年	金メダル
○坂山	さかやま こうだい 航大さん	開成高等学校（東京都）	3年	銀メダル
○山本	やまもと たくみ 拓歩さん	東京都立日比谷高等学校（東京都）	3年	銀メダル
○寛	かけひ けいすけ 敬介さん	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）	2年	銀メダル
○辛嶋	からしま れい 嶺さん	栄光学園高等学校（神奈川県）	2年	銅メダル
○平澤	ひらさわ ゆうや 由埜さん	神奈川大学附属高等学校（神奈川県）	1年	銅メダル

（文部科学大臣特別賞受賞者を○で示す）

4. 参加国数/代表選手数：34か国・地域/216名

5. 場所/期間：オンライン開催（主催国：ウズベキスタン）
令和7年5月17日（土）～5月18日（日）

6. 派遣機関：一般社団法人情報オリンピック日本委員会

（お問合せ）

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 徳永、森澤

電話：03-6734-4191（直通）

一般社団法人情報オリンピック日本委員会 事務局 中嶋、鈴木

電話：03-6681-6591 E-mail：info@ioi-jp.org

◆大会概要

- アジア太平洋情報オリンピックは 2007 年にオーストラリアにて第 1 回大会が開催。
- 2025 年のウズベキスタン大会は第 19 回目。
- 日本は 2007 年の第 1 回オーストラリア大会から参加を開始し、本年は 19 回目の参加。
- 昨年 of 中国大会（オンライン開催）は、36 か国・地域から選手が参加し、日本は金メダル 4 名、銀メダル 3 名受賞。
- 今年のウズベキスタン大会（オンライン開催）は、34 か国・地域から選手が参加し、日本は金メダル 1 名、銀メダル 3 名、銅メダル 2 名受賞。

◆日本代表团（参加選手）の日程（日本時間）

5 月 17 日（土）～5 月 18 日（日）2 日の期間中に、各国は 5 時間の枠を選んで参加。

◆アジア太平洋情報オリンピックにおける過去 3 年の日本代表選手の成績

2022 年（第 16 回 エジプト大会（オンライン開催））

銀メダル 6 名

（参加規模：34 か国・地域、代表選手数 230 名）

2023 年（第 17 回 中国大会（オンライン開催））

金メダル 1 名、銀メダル 5 名

（参加規模：33 か国・地域、代表選手数 204 名）

2024 年（第 18 回 中国大会（オンライン開催））

金メダル 4 名、銀メダル 3 名

（参加規模：36 か国・地域、代表選手数 286 名）

◆アジア太平洋情報オリンピック（APIO＝Asia-Pacific Informatics Olympiad）

アジア太平洋情報オリンピック（APIO）は、アジア太平洋に位置する国・地域が交互にホストとなって開催する国際情報オリンピックに準じた地域大会である。アジア太平洋情報オリンピックは、2 日の競技期間の中で、各国 1 日 5 時間の枠を選択して 3 問を解答する。競技では、与えられた課題に対する性能の良いアルゴリズムを設計し、さらに、それをプログラムとして適切に実装することが求められる。

各国から参加できる選手数は大会ごとに異なるが今回は 30 名までであり、各国参加者のうちの成績上位 6 名タイまでが当該国の代表選手と見なされる。

なお、第 19 回の日本からの参加者は、3 月に開催した「第 24 回日本情報オリンピック」の春季トレーニングの進出者および「日本情報オリンピック第 5 回女性部門」を経て選抜された第 5 回ヨーロッパ女子情報オリンピックの日本代表選手のうち希望する者であり、参加者数は 24 名であった。

アジア太平洋情報オリンピックは、新型コロナウイルス感染症が拡大した 2021 年以降完全オンラインで開催されており、日本は選手の自宅や学校等から参加することができたが、今回から以前の開催方式に戻され、正式参加とみなされるためには、監督員がいる会場からの参加が必要となった。日本は東京会場（日本大学文理学部）をメイン会場として実施し、選手全員が監督員のいる会場から参加した。

◆国際情報オリンピック (IOI=International Olympiad in Informatics)

国際情報オリンピックは、高校生以下の生徒を対象として、数理情報科学の問題解決能力をもつ生徒を見出し、その能力の育成を助け、また、各国の選手・教育者同士の国際交流を図ることを目的としている。1989年にブルガリアのプラベツで第1回が開催されて以来毎年開催されており、今年2025年のボリビア大会は第37回である。

大会の参加資格は「大会開催前年の9月から12月にかけて代表となる国の中等教育機関に在籍し、大会開催年の7月1日に20歳以下であること」とされている※。

※国内選抜大会である日本情報オリンピック (JOI) では、国際大会開催年の4月1日時点で20歳未満である高校生以下を日本代表の選考対象としている。

参加できる選手は国・地域ごとに4名以下で、成績優秀者にメダルが与えられ、金メダルは参加者の約12分の1、銀メダルは約12分の2、銅メダルは約12分の3が受賞する。

国際情報オリンピックで出題される問題では、原則として、与えられた問題を解く、効率が良いアルゴリズムや質の良いアルゴリズムを考え出し (アルゴリズムの設計)、そのアルゴリズムに基づき正しく動作する解法プログラムを作成すること (アルゴリズムの実装) が求められる。使用できるプログラミング言語はC++である。

競技日は2日あり、選手は各競技日に5時間で3問を解く。問題は、実社会で直面する様々な課題を模したものとなっており、それを数理情報科学によって解決する数理的な問題解決能力 (数学的な理解力、分析力、思考力、発想力など) が強く求められる。

◆日本情報オリンピック (JOI=Japanese Olympiad in Informatics)

1993年に財団法人数学オリンピック財団の協力のもとに国際情報オリンピック日本委員会が発足。同年に第1回日本情報オリンピックを開催し、1994年の第6回国際情報オリンピック・スウェーデン大会に2名の代表選手を派遣した。その後1996年までの3年間に延べ6名の選手を国際情報オリンピックへ派遣した。1997年から2005年は一時国際大会への選手派遣を見送ったが、2005年に特定非営利活動法人情報オリンピック日本委員会を設立し、2006年から国際大会への選手派遣を再開。2006年の第18回国際情報オリンピック・メキシコ大会より以後、毎年4名の代表選手を派遣している。2025年のボリビア大会への代表選手を選抜する2024/2025の国内予選 (第24回日本情報オリンピック) には、全国から3,136名が参加。一次予選、二次予選、本選、および2025年3月に開催された日本代表選手選考となる春季トレーニングを経て、ボリビア大会の代表4名を決定した。

◆ 本参考資料に関するお問い合わせ先

一般社団法人 情報オリンピック日本委員会 事務局 中嶋、鈴木

電話 : 03-6681-6591 Fax : 03-6736-0510

E-mail : info@ioi-jp.org

ホームページ <https://www.ioi-jp.org/>